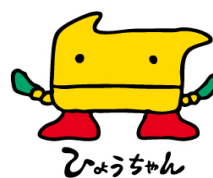


嬉望

第3号
令和6年3月吉日
兵庫教育大学
教職大学院
学校経営コース
編集部
(宇田 眞下)

「嬉望」は、本学加東
キャンパスが嬉野台
地区にあることと、
「希望」とをかけた造
語です。



コース長あいさつ

学校経営コース長
當山 清実 教授

このたび、教職大学院学校
経営コースにおいては、昼間
クラス九名、フレックスクラ
ス九名、計十八名が修了を迎
えることになりました。新た
な門出に際し、担当教員を代
表してご挨拶申し上げます。

派遣元教育委員会及び学校
の関係者の皆様には、現場の
中核として活躍する人材に対
し、2年間の修学機会を提供
していただき、あらためて感
謝申し上げます。

派遣の成果に関しては、本
紙の修了生コメント欄に、大
学院での学びの意義や今後の
決意等が示されていますので、
是非ご確認いただければ幸い
です。

本コースでは、仕事と修学
の両立を図るフレックスクラ
スを併置しているところ、同
クラス初の修了生を送り出す

ことになりました。全国各地
から、多様な職種・校種が集
う環境の中で、合同授業や相
互交流の機会を通じて、昼間
クラスの修了生も刺激を受け、
視野を広げることができたと
確信しています。

このような充実した学びの
実現は、派遣元の関係者の皆
様のご尽力によるものであり、
引き続きご支援を賜りますよ
うお願い申し上げます。

修了生の皆様には、節目を
迎えるにあたり、心よりお祝
い申し上げます。不慣れな学
究生活を送ったこの二年間、
ご苦労も多かったでしょうが、
大きな収穫を得ることができ
たと思います。

教育を取り巻く環境が激変
する中で、職責を果たしてい
くためにも、修学経験を活か
した学びを継続してくださる
ことを期待しています。

自信と謙虚さを兼ね備えた、
教育界の活性化を先導してい
く存在として、今後の益々
ご活躍を祈念申し上げます。

修了にあたり 二年生より

江濱 悦子

(東京都大田区立大森第四中
学校)

自立して学ぶことを心がけ、
学ぶことの楽しさを存分に味
わうことができた学生生活で
した。この二年間でやりたい
教師像を再確認し、自分をエ
ンパワーすることができまし
た。学びを一緒に創って下さ
った全ての方、特に、インタ
ーンで私の学びをより豊かに
してくださった、大阪府立水
都国際中学校・高等学校、井
上省三校長と教職員の皆様に
感謝致します。東京都に戻り
まして、目の前の子供達にとっ
てより良い教育とは何かを探
究し、同志と共に主体的にそ
れを創り続けられる人であり
たいです。

尾縣 大矢

(兵庫県立神戸鈴蘭台高等学
校)

大学院での学びは、自身の
「無知を知る」ことから始ま
りました。講義で学ぶ内容は
どれも新鮮で、知識をインプ
ットする楽しさを味わうこと
ができた一方で、こんなこと
も知らずに教員をしてきたの
かと思わされることも多く、
本当に恥ずかしい思いの連続
でした。そして、私にとって
難関だったのが、インプット
した知識をアウトプットする
作業でした。しかし、その壁
を乗り越えさせてくれたのは、
共に学んだ仲間でした。研究
の途中段階で何度も仲間内で
進捗を報告し合って、意見交
換し、研究をブラッシュアッ
プさせることができ、無事に
修了を迎えることができました。
この二年間で出会った全
ての方々および派遣元である
兵庫県教育委員会に深く感謝
いたします。ありがとうございました。

岡本 由佳子

(兵庫県立香寺高等学校)

兵庫教育大学大学院での2
年間は、学びに専念する時間
が確保され、誇りを持って主
体的に研修に打ち込むことが

できました。学校現場しか知
らなかった私にとって、これ
までとは違う角度から考える
きっかけとなり、貴重な学び
となりました。これからの学
校づくりに必要とされる課題
解決力や組織経営力を高めて
いく日々であったと感じてい
ます。学校教育を取り巻く環
境の変化を前向きに受け止め、
教職生涯を通して学び続ける
意識をもって、これからも精
進していく所存です。ご指導
いただいた先生方をはじめ、
院生の皆様、お世話になった
全ての方々に心より感謝を申
し上げます。本当にありがと
うございました。

河上 慎一朗

(鳥取県岩美町立岩美北小学
校)

これまでの教員生活の中に
おいて、大学院での二年間の
生活はとて短い期間ではあ
りましたが、今後、派遣元に
戻り教育実践を行っていく上
で、重要な指針を得ることが
できた貴重な二年間となりま
した。

大学院の先生方、他都道府
県・校種の現職生、ストレー
ト生等を交えての講義や、先
進校訪問調査、様々な会議へ
参加したフィールドワーク、

佐賀県嬉野市での行政体験等を通して、たくさんの方々と出会い多くのことを学ぶことができました。改めて人とのつながりを持つことや学び続けていくことが、指導者として大切だということを実感することができました。

最後になりましたが、このような機会及び、改善プラン作成に際しご協力頂いた皆様方に感謝申し上げます。

田代 昌平

（静岡県裾野市立須山中学校）

管理職になることを志して、静岡県を離れて過ごした二年間は、私にとってとても貴重な時間となりました。大学院での講義やフィールドワーク、他県・他校種のコースの皆さんとの協議や協働を通して刺激を受け、知見を広げることができました。

先生方には、個の視点でしか捉え切れなかった学校組織を、行政や管理職など様々な立場から多角的に捉える視点を与えていただきました。

最後に、大学院での学びの機会を与えていただいた静岡県教育委員会、裾野市教育委員会、裾野市立須山中学校、インターシップ実践校の裾野市立東中学校、裾野市立富

岡第一小学校の皆さんには、厚く御礼申し上げます。今後は、大学院での学びを裾野市に還元できるように研鑽を重ねていきます。

西本 和樹

（兵庫県立兵庫工業高等学校）

有意義で貴重な経験をさせていただいた二年間でした。今まで知らなかったコト・モノ・セカイとの出会いの連続で、毎日が新鮮でした。学び続けるということは、絶えずアップデートし続けることだと感じています。そして仲間との学び合いによって、独りで学ぶより、より豊かな学びができることを何よりも実感しました。派遣元や校種、様々なキャリアやバックボーンをもつ皆さんとの学び合いはとても充実し、そして楽しかったです。それを支えてくださった先生方には、本当に感謝します。こんな素晴らしい経験ができたこと、こんな素敵な皆さんと出会えたことは、私にとっての何よりの財産です。本当にありがとうございます。

山崎 邦夫

（鳥取県立境高等学校）

大学院での二年間は、主体

的に学ぶ姿勢を身につける貴重な機会となりました。大学院の先生方の、専門知識と経験に基づく御指導や御助言は、理論を実践に結びつける際の重要な支えとなりました。特に、修学指導教員である、三浦先生には、多くの時間を割いて御指導いただきました。また、修了された先輩方や一年生の皆さんからは、貴重なご意見等をいただき考えを深めることができました。そして、同期の仲間の皆さんとの協働的な学びと励ましのおかげで、困難な課題にも取り組むことができ、成長することができたと感じています。このような学びを支えてくださった皆様に深く感謝するとともに、2年間の学びを活かし、今後ますます自己研鑽に努めてまいります。

和田 陽之

（兵庫県立長田商業高等学校）

この二年間は私にとって新鮮な時間であり、院生の仲間と共に学んだ二年間は充実したものでした。学校経営に係わる専門分野について、これまでの教育現場の実践をもとに様々な理論を学ぶことができました。フィールドワークやインターシップでは、先

進的な取り組みをしている多くの学校のことを知ることができ、教育行政との関係などについても、これまでになく視野を持てるようになったと思います。このような機会を私に与えてくださった方々に感謝いたします。そして、大学院の先生方には、助言や励ましのお言葉をいただき本当にありがとうございました。

渡辺 伸勝

（兵庫県立川西明峰高等学校）

二年間の大学院生活は、自己成長と新たな気づきの連続でした。講義やフィールドワークの内容は、全てが新鮮でいつも驚きと発見がありました。インターシップと改善プランの作成では理論と実践の間で悩み、その中で教育現場での課題発見と解決の力が身につきました。同期の仲間からは常に良い刺激を受け、互いに励まし合い共に成長していることを実感しました。教員の方々からは新たな視点や価値観を学び、多大な影響を受けました。この二年間でこれまでの自分の教職経験を

見つめ直し、大学院での学びをどのように社会に還元していくべきかを問い続けました。私を支えてくださった家族や友人、指導教員、現任校の同僚、そしてこのような機会を下さった兵庫県教育委員会に心から感謝申し上げます。

フレックス生

桃原 のぞみ

（沖縄県恩納村立仲泊小学校）

本大学院で二年間の学びを終え、フレックス一期生であった私たち十名は、学校現場との両立をしながら様々な場面において、大学の先生方を含め初めてのことばかりで、いつでもどこでも学べるよさと共に、多くの苦労もありました。それ故、仲間の絆は強く日本全国から集って学んでいる誇りと、しなやかさも同時に育ち、互いの情報が刺激となり、みんなで乗り越えることができたように思います。この絆を大切にこれからの学びを更に充実したものにしていきたいと希望しています。最後に、切磋琢磨し必死に学ぶ私たちを丁寧に支え導いてくださった指導教授には心からの感謝を申し上げます。

編集後記

大学院学校経営コースでの学びを終えた二年生は、二年間深めた研究の成果を現場に還元すべく、新たな環境に向けて志を新たにしています。

一年生も二年生に続き、派遣元の学校や地域の教育に還元できるよう引き続き研究に励んで参ります。

（一年生 宇田 眞下）

